

100万人会員増強運動を確かなものに

～第56回四国老人クラブ大会が開催されました～

去る8月5日、古くからこんぴらさん（金刀比羅宮）の門前町として栄えた、香川県の琴平町において「第56回四国老人クラブ大会」が開催され、四国各県の老人クラブリーダーら約320名が参集しました（本県39名参加）。前日まで降り続いた大雨の影響で、四国内の国道や高速、JRなどに一部影響が出て、特に高知県からのアクセスが遮断されたため、高知県からほとんど参加できない状況となりましたが、予定通りの開催となりました。



まず初めに行われた式典では、藤川 恵一 大会長（香川県老連会長）の挨拶に続き、各県において老人クラブの発展に寄与された14名に対し、表彰状と記念品が贈られました。

※本県関係者（3名）

十川 茂雄（阿波市）、橋本 博夫（美波町）、
豊村 啓輔（板野町）

記念講演は、香川大学教育学部の山神 眞一先生が「生き生き 浮き有喜シルバーライフ」と題し、転倒予防や階段昇降のコツなどについて、実技を交えて説明され、また参加者によるウォーキングのデモンストレーションや、参加者同士による手遊び歌などもあり、大いに盛り上がりました。



休憩をはさんで大会後半に入り、各県の会長を議長団とする事例発表に移りました。はじめに、伊丹 一夫 徳島県老連会長から前年度決議された実践項目等、第55回大会の処理報告が行われました。事例発表では、各県から「100万人会員増強運動」に呼応した取り組みが発表され、本県からは鳴門市老連 藤村 松男 若手委員長から「若手リーダーの養成・活用」と題して、市老連若手委員会の役割や事業、それぞれの地域における奉仕、世代間交流の活動を紹介、また人材を発掘する方法として、自治会等の地縁組織が主催する行事に参加し、有望な人材を勧誘していると発表されました。



活発な質疑を終え、大会宣言の決議に移り、高

知県老連会長の代役として、香川県老連副会長が宣言文案を朗読，満場一致の拍手で宣言文が決議され，100万人会員増強運動に呼応した取り組みの推進等5項目の実践を誓いました（下記参照）。

閉会行事に移り，次期開催県である愛媛県の鈴木 尊 会長が挨拶，最後に万歳三唱が行われ全日程を終了しました。



～～決議された大会宣言の実践事項～～

1. 「100万人会員増強運動」に呼応した取り組みの推進
 1. 健康長寿を目指した健康づくり・介護予防の推進
 1. 他世代や関係団体と連携し、安全・安心の地域づくりの推進
 1. 豊富な経験や知識を活かした楽しい活躍の場づくり・機会づくりの推進
 1. 社会奉仕活動を通じた老人クラブのPR活動の推進